

中学校 2 年 学級活動学習指導案

「自他の安全面・健康面に配慮した、情報メディアとの関わり方を考える」

日 時：平成 23 年 月 日 ()

場 所：矢部中学校 2 年 組教室

授業者：教諭 鹿釜 良一

1 題材名

「ケータイ電話の使い方を考えよう」

自他の安全面・健康面に配慮した、情報メディアとの関わりを考える

2 題材について

(1) 題材のねらい

携帯電話の急速な普及により、子どもたちが携帯電話を自由に使える環境も急速に広がっている。平成 22 年度熊本県公立学校いじめアンケート（平成 23 年 6 月 10 日）結果によると、携帯電話を所持している小学生は 16.2%、中学生では 32.4%、高校生になると 88.1%にも跳ね上がる。メールやインターネット上の掲示板などを使っていじめられる「ネット上のいじめ」を受けたことがあると回答した児童生徒数は昨年度より減少しているものの、中学校においては 244 名（0.5%）と依然として多い。携帯電話の低年齢層への普及に伴い、新学習指導要領総則に情報モラルや倫理観をはぐくむ指導の必要性が明記され、各学校での指導の充実が望まれる。また、所有率が高い高校生において、携帯電話利用のモラルやマナーについて「きちんと守っている」・「少し守っている」と 99%の生徒が回答しているものの、家庭でのルールについては 68%が「ない」と回答している。携帯電話を使用する時間帯も「放課後（～19 時）」と「深夜（23 時～）」の時間帯が多く（平成 21 年度結果）、トラブルに巻き込まれる危険性が高いだけでなく、身体への悪影響や学校生活への影響等、様々なことが心配される。児童・生徒の携帯電話使用料の支払いも 89.6%が保護者ということもあり、興味や憧れ、おしゃれ感覚、周囲の影響で持つのではなく、使用目的や必要性等を主体的に判断し、考えさせながら使用させる必要があると考え、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態について

項目	割合
自分専用の携帯電話を持っている	20%
持ってはいないが、自由に使用できる携帯電話がある	28%
自分専用のパソコンを持っている	3%
持ってはいないが、自由に使用できるパソコンがある	49%
自由に使用できる携帯電話かパソコンがある	74%

個人で携帯電話やパソコンを所有している生徒は全体の 23%と県の結果と比較すると少ないが、自由に使用できる携帯電話かパソコン（インターネット接続可能）があると答えた生徒は、74%と非常に高い。しかし、家庭でのルールが「ある」と回答した生徒は 9%と少ない。

また、携帯電話が欲しいと回答した生徒の理由として、「インターネットがしたいから」・「みんながもっているから」・「自分だけで使いたいから」・「友だちとのメールを誰にも見られないようにしたいから」・「便利そうだから」・「楽しそうだから」・「迎えを呼ぶときに使いたいから」・「何となく」が挙げられた。少数ではあるが、「持つと勉強や部活動に集中できなくなるからいらぬ」という意見もある。

(3) 指導にあたって

- ア 生徒のアンケート結果や実態に身近な教材を用いることにより、生徒の興味・関心を高める。
- イ 携帯電話の便利な面を中心に、使用する際のマナーや注意事項を考えさせる。その際、使い方次第では自分だけでなく、周囲の人たちにも影響することを押さえる。
- ウ 考えを深めるために、グループ活動や発表の場を設けるとともに、最後は自分の行動を振り返る場面を設定する。

(4) 情報モラル教育の視点から

- ア 本時は、「モデルカリキュラム」の目標「3. 安全への知恵」、項目「f：自他の安全な健康を害するような行動を抑制できる」との関連を重視して展開する。
- イ 本時は、情報モラルの内容を題材化して授業を行う。携帯電話の便利な面を考える中で、使い方次第では自分の健康を害するだけでなく、他者に迷惑をかけた、トラブルに巻き込まれたりする危険性があることについて考えさせる。

(5) 人権教育の視点

- ア 自分の考えを、自信を持って発表できるような支持的風土づくりに努める。
- イ 互いの意見を尊重しながら、共に高め合おうとする態度を育てる。

3 本時の学習

(1) 目標

安全面・健康面に配慮して、情報メディアと関わろうとする態度を養う。

(2) 展開

過程	学習活動及び主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点	備考
導入 5分	1 事前アンケート結果を知り、感想を発表する。 ・携帯電話の所有率 ・携帯電話の使用目的 ・県アンケートとの比較等	・思った以上にみんな使っているのが驚いた。 ・持っていないので、持っている人がうらやましい。 ・携帯電話やパソコンを使ってネットショッピングやチャットをしている人があるのがすごい。	・アンケート結果は深く考えすぎない程度に押さえる。 ・数名に感想を尋ねる。	携帯電話 PC プロジェクト
展開 35分	2 携帯電話の良い（便利な）ところについて出し合う。	・いつでも通話ができる。 ・メールができる。 ・買い物ができる。 ・インターネットで情報を収集できる。 ・ネットに書き込み、情報交換ができる。 ・ゲームができる。等	・携帯電話の便利な点に注目させる。 ・携帯電話が生活を助けている例を挙げて紹介する。 ・後でグループ分けができるように、カードに記入させる。	カード
	3 本時の課題を確認する。 《学習課題》	携帯電話のよりよい使い方について考え、使用するルールを決めよう。		学習課題
	4 家庭での使用ルールを例に、いいことだらけの携帯電話なのに、なぜルールが必要なのかを考える。	・危険に巻き込まれるから。 ・勉強しなくなるから。 ・お金がかかるから。	・危険なことに巻き込まれることが一番恐いことを押さえる。	ワークシート カード
5 4で挙げた理由をグループピングする。	・自分の安全を守る。 ・他者に迷惑をかけない。 ・基本的な生活（健康）を守る。	・自分の安全を守ることについて考えていくことを知らせる。	カード	

	<p>6 DVD教材「ココノスキマ」を視聴し、トラブルに巻き込まれた原因について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絶対アクセスしないからといって、アクセス制限をしなかったから。 ・これくらい大丈夫だと思ったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前半部と後半部に分け、前半部を視聴し終えたところで、展開を予想させる。 ・何が原因だったのかを考えさせる。 ・数名に感想を発表させる。 	<p>DVD プロジェクタ PC ワークシート</p>
<p>終末 10 分</p>	<p>7 教師のまとめを聞き、自分なりに使用するルールを決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・このくらいという甘い気持ちで使わないようにしたい。 ・相手の気持ちを考えて使いたい。 ・ルールを守って使いたい。 ・本当に必要になったときに買いたい。 ・無駄遣いをしないように気をつけたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これくらいという心の隙間が他者に迷惑をかけたか、基本的生活を崩したりすることにつながることを例を挙げて説明する。 ・グループ内でルールについて発表させ合う。 	<p>資料 ワークシート</p>
	<p>評価項目：安全面や健康面に配慮した、携帯電話の使い方についてルールを決め、それを守ろうとする意欲が高まったか。</p> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p> <p>評価方法：学習シート</p>			

4 モデルカリキュラムの位置づけ

(モデルカリキュラム、山都町情報モラル教育年間計画－中学2年生－を参考に作成)

情報モラル (大目標レベル)	道徳、各教科、特別活動 他
a 4 : 情報社会への参画において、責任ある態度で臨み、義務を果たす。	技術・家庭「情報伝達の安全性とマナーを考えよう」 ○安全に興味を持ち、適切な情報処理を考える。 技術・家庭「情報社会と私たちの責任」 ○情報社会の一員として、責任ある行動の必要性を理解する。
b 4 : 情報に関する自分や他者の権利を理解し、尊重する。	技術・家庭「情報とわたしたちの生活」 ○情報のデジタル化と著作権について考える。
c 4 : 社会は互いにルール・法律を守ることによって成り立っていることを知る。	技術・家庭「情報社会と私たちの責任」 ○生活の中でのコンピュータの役割について考える。
d 4 : 危険を予測し被害を予防するとともに、安全に活用する。	道徳「規則があなたを守る」4-(1) 法の理解と遵守 道徳【関連】プラットフォーム「ネットワーク社会の落とし穴」 技術・家庭「情報伝達の安全性とマナーを考えよう」 ○コンピュータ犯罪の深刻さを理解する。 ○安全に興味を持ち、適切な情報処理を考える。 ○情報公開の危険性について考え、情報を安全に活用する。
e 4 : 情報を正しく安全に活用するための知識や技術を身につける。	技術・家庭「情報伝達の安全性とマナーを考えよう」 ○ユーザ ID やパスワードの設定の仕方についてまとめる。 ○ユーザ ID やパスワードの役割を考える。
f 4 : 自他の安全や健康を害するような行動を抑制できる。	学級活動「携帯電話の使い方を考えよう」 ○自他の安全面・健康面に配慮した情報メディアとの関わり方を意識した行動について考える。(本時)
g 4 : 情報セキュリティに関する基礎的・基本的な知識を身につける。	技術・家庭「情報伝達の安全性とマナーを考えよう」 ○コンピュータ犯罪の深刻さを理解する。 技術・家庭「情報社会と私たちの責任」 ○情報社会の一員として、責任ある行動の必要性を理解する。 道徳【関連】プラットフォーム「ネットワーク社会の落とし穴」
h 4 : 情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる。	道徳「かつてに使ってほしいようぶ？」4-(2) 社会の秩序と規律 技術・家庭「情報社会と私たちの責任」 ○情報社会の一員として、責任ある行動の必要性を理解する。
i 4 : 情報社会の一員として、公共的な意識を持ち、適切な判断や行動ができる。	技術・家庭「情報社会と私たちの責任」 ○情報社会の一員として責任ある行動の必要性を理解する。